応募要領

◆小規模企業（従業員100名以下）の製造業を対象としています。業種・業態は問いません。
◆企業内で抱える現場力向上、職場の改善に関する問題、課題、悩みをお聞きし、必要と思われる講座指導の実施、実際の問題解決の支援、成果発表の支援を行います。
◆支援は毎月1回（5～6時間／月）、期間は6ヶ月を目安とします。講師はQCサークル活動に関する経験豊富な実務家です。
　なお、応募にあたっては、本活動導入に対して経営責任者自らが熱意を持ち、真剣に取り組まれることを望んでおります。

■改善の進め方と期間

現場力を向上させ元気な会社へ

元気な会社は、必ず現場が元気です。元気な現場とは自ら問題を見つけ、自ら改善していく力を持つ従業員が働く現場です。改善の狙いは、1件1件の問題解決による経済的効果に加え、活動を通して得られる個々人の能力向上にあります。それによってもたらされる現場力の強化は、各仕事の達成レベルを引き上げ、経営環境の激変にも対応できる企業体質へと経営の質を変えることにつながります。

課題形成力	行動力	現場（組織）力	企業力
問題・課題の気づき・発見（個人）	問題・課題の解決、個々人の能力アップ（個人）	課題形成力・活動力を持つチーム（チーム）	仕事の質の向上（企業）

改善のステップ
- **Plan**: 改善の対象を明確にし、実態からターゲットを絞り込む。
- **Do**: 掴んだ問題を解き明かし、改善策を検討し実施する。
- **Check**: 方策の実施結果を確認する。
- **Act**: 効果を維持するためのルールを決め、実施する。

現場力とは?
『現場の人材が持つ力』で下記のように表せる。
問題を **見つけ出す力**
＋
問題を **解き明かす力**
＋
それらを **実行する力**

学習支援内容：相談、講演会、研修会、勉強会、個別指導、成果確認（発表会）

6ヵ月

QCサークル活動（小集団改善活動）は、生産革新や変更点・変更点管理、ISOレベルアップにも不可欠です。

実施費用	6ヵ月（6回の指導） 100,000円（税別） 内訳： 講師指導料（1名） 15,000円／回、テキスト・資料（原稿料） 10,000円 交通費・宿泊費は別途実費をいただきます。　※対象サークルは最大3サークル ※QCサークル本部主催のQCサークル全国大会、全日本選抜QCサークル大会へ優待料金でご参加いただけます。 詳細は、QCサークル本部事務局へお問い合わせください。（TEL:03-5378-9815）

支援期間等ご要望がございましたら、下記お問い合せ先にご連絡ください。

QCサークル活動（小集団改善活動）を始めたいと思われた経営者のみなさま
お気軽にお問い合せ・ご相談ください。

株式会社品質　QCサークル品質管理部　担当者品質　太郎

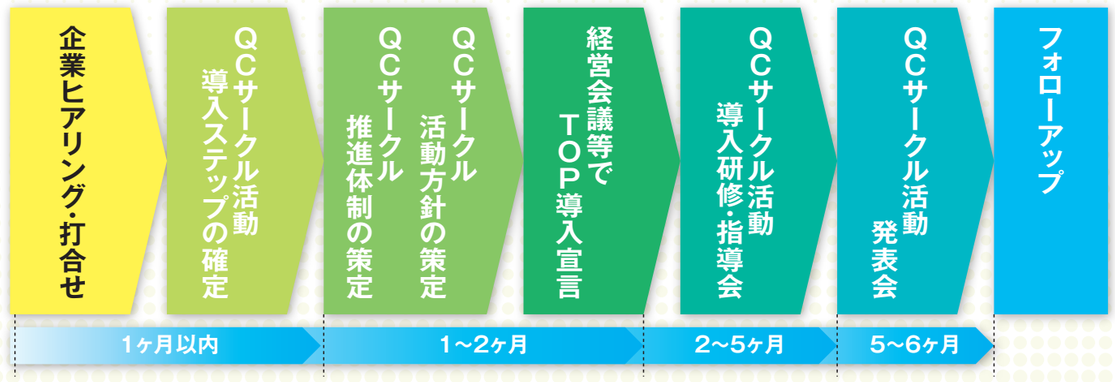
〒000－1111　東京都杉並区高円寺南1－2－1
TEL:03－5378－9813　FAX:03－5378－9843　E-Mail:JUSE@JUSE.or.jp

小規模企業のみなさまへ
（従業員100名以下）

QCサークル活動導入のための（小集団改善活動）支援・指導のご案内

貴社のお悩みを解消する答えは現場にあります。ものづくり小規模企業様向けに、現場力の向上のお手伝いをします。ぜひ、ご活用ください!

QCサークル活動（小集団改善活動）導入フロー



お気軽にお問い合わせ・ご相談ください!

QCサークル活動（小集団改善活動）
導入モデルとなった小規模企業2社様のご紹介

導入モデル ① Ｉ社の場合

1.会社概要

社　員　数　25名
事 業 内 容　ダンボールやプラ段（プラダン）をはじめとする各種梱包資材や緩衝材、液体･固体用真空容器などの製作･販売

2.QCサークル活動（小集団改善活動）導入のきっかけ

人材育成の一環としてQCC活動を導入することを決意。それが最終的に会社の利益向上となると考え、最初にQCサークル九州支部西部九州地区に活動の導入に関する支援等の問い合わせ･要請をおこなった。

3.導入支援期間

2014年7月 ～ 2014年12月（12月に発表会開催）

4.QCサークル活動（小集団改善活動）導入の様子

①社長の想いをヒアリング

②活動開始

③社長も入って熱い議論

④成果発表会

5.活動を終えて（アンケート結果）

導入支援を受けたメンバーの声

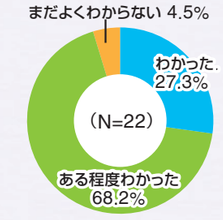
- 最初は不安が沢山あったが、完了できたこと、何よりもみなさんとの仲が深まったことが良かった。
- 社員全員が常に改善活動の意識を向上し協力し合えることが魅力的だと思う。
- 少数で活動するため、個々のメンバーの改善に対する姿勢･行動がわかる。数値、グラフで表すため、メンバー全員が情報の共有ができる。
- 少人数で活動するため、一人一人に役割･担当を与えながら改善活動を行うことができ、やらなければならないという自覚･責任感が持てる。
- わからないところをお互いに教え合うことで、「知る」「教える」喜びを感じることが出来るようになった。

発表会参加者（外部聴講者）の声

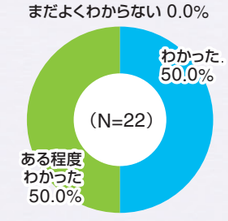
- モチベーションの高さに驚いた。自社でも導入を検討したい。
- 7年前を知っているが、大きく発展したと感じる。
- QCC活動を長くやっているが、自分たちのやっていることが恥ずかしく感じた。
- このような社長のもとで活動が出来るみなさんがうらやましい。

活動に関する理解度

改善の方法や考え方について（%）

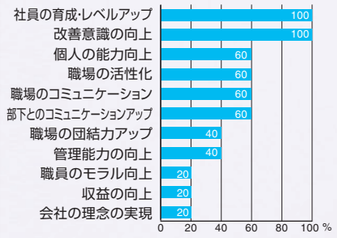


チームで活動する意味について（%）

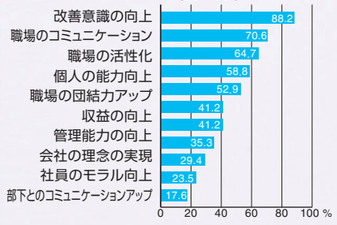


どんなことに役立ちましたか

リーダー（N=5）



メンバー（N=17）



6.支援期間を終えた社長より

この活動の魅力は、感覚的に捉えていた問題をデータ化することにより問題点が抽出でき、また改善すべき課題が明確になること。また、課題解決のために社員に自主性が目覚めることにある。

導入の効果

会　社
- 会社としての利益とは何かが全社で共有でき、目に見えないムダを認識できつつある。
- 主体性が出始めていること。

職　場
- サークル内のコミュニケーションが良くなった。
- 社員の隠れた能力を発見出来た。

個　人
- 共通の言語ができ、指示したことが伝わりやすくなった。

中小企業の経営者はQCC活動のイメージが製造現場のカイゼン活動であるとの思い込みが強いので、QCC活動の目的を広報されたほうが良いと思う。

導入モデル ② H社の場合

1.会社概要

社　員　数　47名
事 業 内 容　主に農業用機械部品、小型建設機械部品、物流コンテナ部品、環境関連機器部品の製作加工

2.QCサークル活動（小集団改善活動）導入のきっかけ

社長自らQCC活動を導入したい旨、東北支部世話人に要望があり、支援活動を開始した。

3.導入支援期間

2014年8月 ～ 2015年4月（4月に発表会開催）

4.支援活動･発表会を終えた支援･指導講師より

成果発表会

当初の計画では、社内のみの参加で開催を予定されていたが、取引先と近隣の企業に声をかけられた結果、5社から約40名近くの参加があり、ある1社からは20名が参加されていた。多くが小規模企業と思われるが、改善活動、そしてQC･QCサークル活動への興味がそれだけ強いことが覗えた。

当日の発表は、初めての発表とはとても考えられないほど、見事に資料が作成されており、一部には動画も挿入され、また発表態度にも驚かされた。1週間前にはプレ発表会を持たれ、社内一丸となって準備されてきたと思われる。

最後の社長様の感無量とも思われるご様子は、わずか半年余りの期間に貴重な財産を得えられたものと思われ、素晴らしいトップと会社に巡り合え、素晴らしい経験をさせていただいた。

QCサークルといえば大企業や中堅企業がやること、と捉えがちですし、実際にそうでした。50名ほどの小規模企業でやれるのか、当初はどうなるか読めなかったのですが、今回のプロジェクトで立派に活動いただけることが証明されました。ぜひ、多くの小規模企業で導入されるよう、輪を広げられるようにするのが我々のミッションといえる。

その際の最大のポイントは、トップや経営者の当活動に対する理解であることは言うまでもなく、ここさえしっかりとしていれば規模の大小に関係なく展開は可能との結論が得られたといえる。